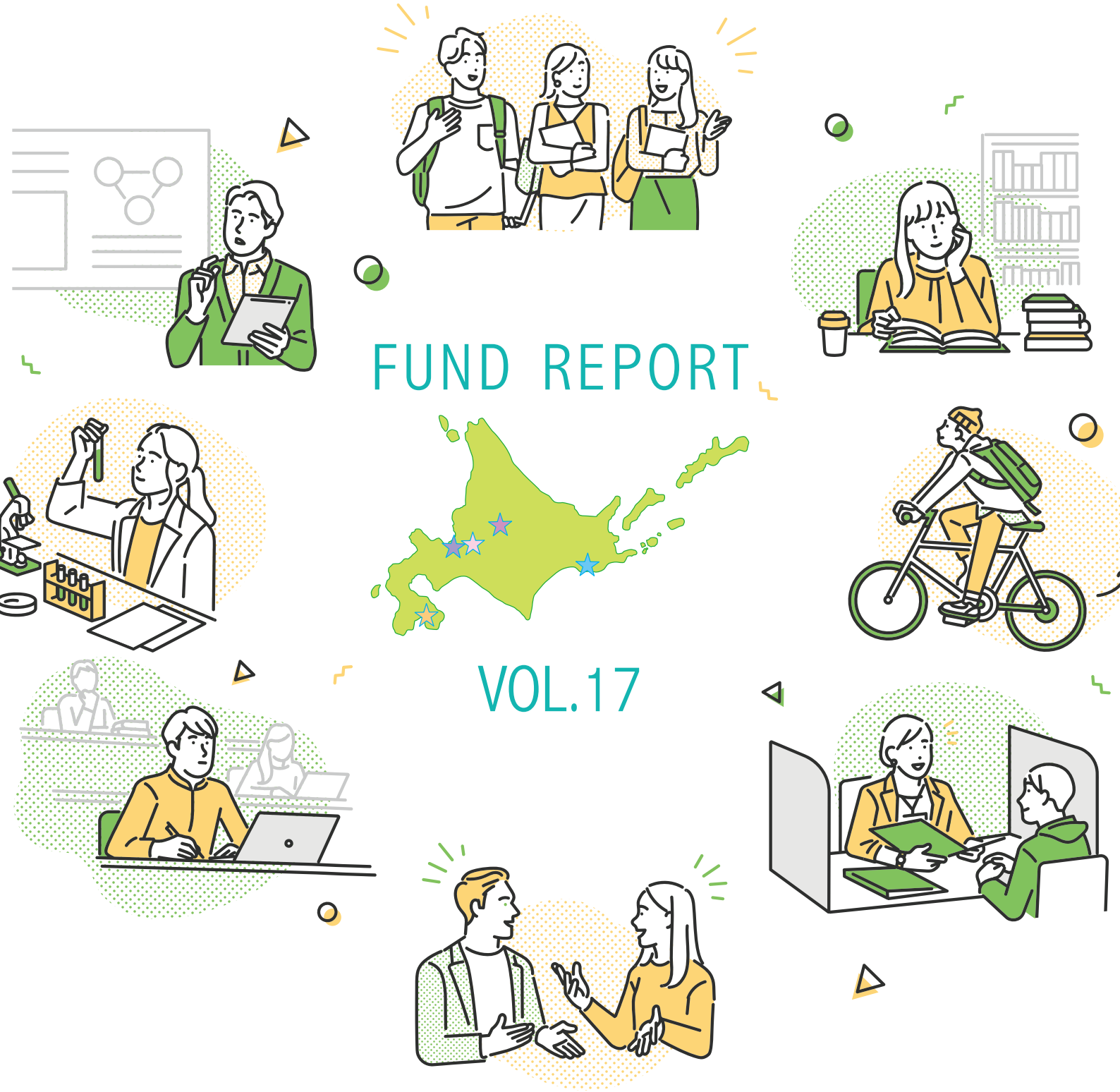
基金だより

第17号



FUND REPORT

VOL.17

国立大学法人
北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

はじめに

北海道教育大学長
田口　哲

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学では、教員をめざす、あるいは地域社会の様々な分野で活躍しようと勉学に励む学生を支援するため、平成18年12月に基金を創設し、募金活動を実施してまいりました。

この間、多くの企業・団体、同窓生、学生の保護者及び教職員をはじめとする、本学を応援してくださる様々な方々からご寄附を賜り、これまでに、延べ770名を超える学生に奨学金を授与してまいりました。また、経済的な理由により修学が困難な学生を支援する『修学支援事業』、みなさまからの共感によりキャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）を実現する『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設・実施するなど、大変有意義に基金事業を展開することができました。

皆様から温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、現代社会に目を向けると、グローバル化などの進展に加え、Society5.0の実現に向け社会構造の変化がますます加速する中、予測困難な時代を生きる子どもたちの教育に求められる内容も時々刻々と変化しています。本学では、教員を「教育に関する高度な専門職業人」と捉え、教育に関する専門的知識に裏打ちされた実践力や自ら問題の発見・解決に取り組む基本的な臨床的研究能力、そして教育的愛情と使命感を基礎として学び続ける力を持った人材を養成しています。これにより「質の高い教育をみんなに」というSDGsの目標4の達成に寄与しています。

また、地域社会では、少子高齢化や人生100年時代の到来、地方創生の実現に向けた諸課題が山積する中、持続可能で活力ある社会を目指した変革が求められています。本学の「国際地域学科」と「芸術・スポーツ文化学科」では、グローバルな視点をもって地域を活性化する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に豊かで健康な生活を提案できる人材を養成しています。これはSDGsの「住み続けられるまちづくりを」（目標11）、「すべての人に健康と福祉を」（目標3）という目標達成に寄与することにつながります。

本学は、次世代を担う人材養成のため、充実した教育体制や教育を支える環境整備はもとより、学生自身の自発的で積極的な学習への取組の奨励、経済的な理由により学業を断念することなく、安心して学業に専念できるための支援を行うなど、これからも基金事業を充実・継続してまいります。昨今メディア等でも報じられている通り、本学を含め国立大学を取り巻く財政は非常に厳しい状況にありますが、「教員と地域人材の養成を通じて、地域の成長・発展を牽引する大学」として、Well-beingな社会の実現に取り組んでまいります。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目　次

1. 令和5年度事業報告 …… 2
2. 基金の収支状況 …… 2
3. 育英事業奨学金受給者から …… 3
　学部学生 …… 3
　大学院生 …… 6
4. 奨学金授与者数 …… 7
5. 寄附者のご紹介 …… 8
　企業、法人、団体等 …… 8
　個人 …… 9
6. 大学の近況報告 …… 10
7. お知らせ …… 13

1　令和5年度事業報告

■令和5年度事業として以下のとおり実施しました。

育 英 事 業

①優秀な大学院生（現職教員以外）への奨学金給付
　　5名に対し、1人10万円　計50万円を給付
②優秀な学部学生への奨学金給付
　　15名に対し、1人10万円　計150万円を給付
　　※給付額合計200万円の内、基金から110万円を支出

修学支援事業

①経済的理由により修学困難な学生に対する奨学金給付
　　32名に対し、1人10万円　計320万円を給付
②学生の海外留学支援のための奨学金給付
　　5名に対し、海外留学に係る渡航費用の一部補助として、1人約10万円　計470,556円を給付
③物価高に対する経済対策支援事業
　　日本学生支援機構の給付金に加えて、基金から1,049,500円を支出

表 彰 事 業

意欲的に学習や自己研鑽に励み、学業成績優秀な学生や課外活動等の成果が特に顕著な学生等を表彰（表彰状及び記念品を贈呈）
　　学業成績優秀者16名、
　　その他の表彰（課外活動、ボランティア活動等）個人5名

キャンパス指定事業、附属学校（園）支援事業

「キャンパス活性化リノベーション事業」による修学環境の整備、岩見沢校サッカー部の活動支援のほか、各校の修学環境整備、学生支援、教育支援、就職支援、学生活動支援等に要した経費を支出

2　基金の収支状況

■令和5年度のご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収　入		支　出	
前年度からの繰入	69,267,577		
修学支援事業	3,162,273	修学支援事業	4,720,056
その他の事業	52,124,350	その他の事業	58,429,761
育英事業等	437,016	育英事業等	1,386,391
研究プロジェクト・公開講座等支援事業	15,396	研究プロジェクト・公開講座等支援事業	0
キャンパス指定事業	35,728,906	キャンパス指定事業	37,698,183
附属学校（園）支援事業	15,943,032	附属学校（園）支援事業	19,345,187
		管理費（リーフレット、手数料等）	1,152,175
合　計	124,554,200	合　計	64,301,992
		差引収支額	60,252,208

■平成18年12月の基金創設時から、令和6年3月までのご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収　入		支　出	
修学支援事業	56,613,689	修学支援事業	37,402,643
その他の事業	379,008,710	その他の事業	332,066,769
育英事業等	98,196,113	育英事業等	95,712,612
研究プロジェクト・公開講座等支援事業	20,640	研究プロジェクト・公開講座等支援事業	0
		現代的教育課題への研究支援事業	306,188
キャンパス指定事業	211,346,963	キャンパス指定事業	179,467,260
附属学校（園）支援事業	69,444,994	附属学校（園）支援事業	56,580,709
		管理費（リーフレット、手数料等）	5,900,779
合　計	435,622,399	合　計	375,370,191
		寄附金残額	60,252,208

3　育英事業奨学金受給者から

学部学生

◆ 札幌校　教員養成課程　理数教育専攻　2年　佐藤　摩周

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で日頃の努力を評価していただき、大変嬉しく思います。大学では、専攻している数学や教育に関する内容を中心に学び、講義や課題などを通して新たな知識を得たり、自分の考えを深めたりしています。

今後も支えてくださる方々への感謝を忘れず、日々努力を重ねていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

◆ 札幌校　教員養成課程　学校教育専攻　3年　笹森　結衣

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。こうして奨学生に選んでいただけたのは、支えてくださった多くの方々のおかげです。残りの大学生活も、人との繋がりや出会いを大切にし、様々なことに挑戦していきたいと思います。

授与していただいた奨学金は、大切に使わせていただきます。この度は本当にありがとうございました。

◆ 札幌校　教員養成課程　学校教育専攻　4年　長太　杏樹

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で大学での学びを評価していただき、大変嬉しく光栄に感じております。同期と共に学び、互いを高め合う4年間を過ごすことができたのは、私たちのために尽力してくださった先生方、ご支援いただいた皆様のおかげです。

今後は、立派な社会人として自立できるよう、より一層努力を続けてまいります。最後になりましたが、ご支援をくださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。

◆ 旭川校　教員養成課程　教育発達専攻　2年　河端　心美

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。日々の努力をこのような形で評価していただき、大変光栄です。

現在、私は、自分の専攻分野である教育心理学を中心に、勉学に励んでおります。大学での学びを、教育に結び付ける方法を考え、学びを深めることが日々の目標です。

ご支援への感謝の気持ちを忘れず、今後も努力を重ね、「教育」と向き合っていきます。

この度は、本当にありがとうございました。

◆ 旭川校　教員養成課程　社会科教育専攻　3年　小塩　泰生

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただけたことを大変光栄に思います。

私は現在、高等学校の公民科の教員になるため、日々勉学に励んでおります。生徒の個性や努力を尊重し、公民科教育を楽しんでもらえるような高等学校教諭を目指して、これからも精進してまいります。この度のご支援、誠にありがとうございました。

◆ 旭川校　教員養成課程　教育発達専攻　4年　大泉　文悠夏

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただきましたことに心より感謝申し上げます。これまでの取り組みをこのような形で評価していただき、大変光栄に思います。

私は現在、小学校教諭になるために勉学に励んでおります。日々私を支えてくださる先生方や家族、基金に関わる皆様、多くの方への感謝の気持ちや学び続ける姿勢を忘れず、今後も精進してまいります。誠にありがとうございました。

◆ 釧路校　教員養成課程　地域学校教育実践専攻　2年　田中　日南子

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただきましたことに心より感謝申し上げます。このようなお話をいただけたのは、日々親身になって指導くださる本学の先生方や、教員という共通の目標に向かって共に勉学に励む友人、そして支えてくれている家族の存在があったからこそのことです。今後も社会科教育に関する見識を深めるとともに、より一層学業に邁進して参ります。この度は誠にありがとうございました。

◆ 釧路校　教員養成課程　地域学校教育実践専攻　3年　上村　知子

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

このような形でこれまでの努力を評価していただけたことを大変嬉しく思います。私がこうして奨学生に選んでいただけたのは、先生方や周囲の人に支えていただいているおかげです。

多くの方々に支えていただいていること、ご支援いただいたことへの感謝の気持ちを忘れずに、今後も学び続け日々精進してまいります。本当にありがとうございました。

◆ 釧路校　教員養成課程　地域学校教育実践専攻　4年　川上　麟

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝を申し上げます。自分の今までの努力をこういった形で評価していただけたこと、大変嬉しく存じます。奨学金をいただけたのも、日頃よりご指導いただいた先生方、また共に学んできた学友、そして学生を応援し寄付してくださった皆さんのお陰だと感じ、より一層周りの方々への感謝の気持ちを感じることができた次第です。

卒業まで残り少ない期間ですが、4月からの教員としての勤務に向け、さらに知識を深めていきたいと考えています。そのための機器の購入に今回いただいた奨学金を当てさせていただきます。この度は本当にありがとうございました。

◆ 函館校　国際地域学科　地域協働専攻　2年　武田　菜々子

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。お話をいただいたときは非常に驚きましたが、日々の努力をこのような形で評価していただけたことを大変光栄に思います。

私は現在、専攻分野である社会福祉を中心に、日々勉学に励んでおります。支えてくださる周囲の方々への感謝を忘れず、多くの人に寄り添える立場となれるよう、これからも精進してまいります。この度のご支援、誠にありがとうございました。

◆ 函館校　国際地域学科　地域協働専攻　3年　岡本　誇子

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。日々の努力をこのような形で評価していただけたこと、大変嬉しく思います。

これまで学業や部活動、地域の皆様との交流等を通して、貴重な学びを得ることができ、とても充実した大学生活を送ることが出来ました。これはご支援いただいた皆様、日々私を支えてくださる先生方、家族や友人のおかげです。

感謝の気持ちを忘れず、今後も社会に貢献できる人材を目指して自己研鑽に努めてまいります。本当にありがとうございました。

◆ 函館校　国際地域学科　地域協働専攻　4年　佐藤　悠一朗

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただけたことを大変嬉しく思います。

卒業まで残りわずかとなりましたが、ご支援いただいた皆様をはじめ、ご指導してくださる先生方、先輩方、友人、そして、日々支えてくれる家族に感謝の気持ちを忘れず、日々一層努力をして参りたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

◆ 岩見沢校　芸術・スポーツ文化学科　芸術・スポーツビジネス専攻　2年　金田　望愛

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただき大変光栄に思います。

この先の大学生活も、ご支援いただいた皆様や周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに、より一層努力を重ねて参ります。そして芸術・スポーツを通じて地域に、社会に貢献できる人間になれるよう成長していきたいと思っております。

ご支援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。この度はありがとうございました。

◆ 岩見沢校　芸術・スポーツ文化学科　芸術・スポーツビジネス専攻　3年　高橋　宏和

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき誠にありがとうございます。このような形で日々の努力と取り組みの成果を評価していただけたことを、大変光栄に思っております。

この先の学生生活においても、ご支援いただいた皆様への感謝を忘れずに、より一層勉学に励み、地域で活躍できる人材となれるよう精進してまいります。この度は誠にありがとうございました。

◆ 岩見沢校　芸術・スポーツ文化学科　美術文化専攻　4年　加藤　璃音

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。このような形で日頃の取り組みを評価していただけたこと、大変嬉しく思います。

自分らしく学ぶことができるのは、指導教員である三橋純予先生の温かい言葉の支えとご指導のおかげです。またいつも見守ってくれている家族や共に学ぶ友人を含め、すべての人へ感謝の気持ちを持ち続けたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

大学院生

◆ 学校臨床心理専攻　学校臨床心理専修（札幌校）　2年　板垣　雄大

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金のご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

授与して頂いた奨学金は、研究に関する諸費用に充てることができ、このようなご支援を大変有り難く感じております。今回、ご支援して頂きました育英事業に関わる皆様方への感謝の気持ちを忘れず、より一層研究と修養に励んで参ります。この度は、本当にありがとうございました。

◆ 高度教職実践専攻　高度教職実践専修（札幌校）　2年　中山　穂乃花

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

奨学生として選出された驚きとともに、日々の取り組みをこのような形で評価していただけたことを大変光栄に思います。大学院や実習先の先生方、仲間たちに支えられ、勉学に注力することができたからこそだと思います。多くの方への感謝の気持ちと学び続ける姿勢を忘れず、これからも日々の研鑽を積んでまいります。重ねて御礼申し上げます。

◆ 高度教職実践専攻　高度教職実践専修（旭川校）　2年　片平　大知

この度は北海道教育大学基金奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。授与していただいた奨学金は、研究のための書籍の購入費に充てさせていただきたいと思います。

大学院では、古典の暗唱に焦点を当て、研究を進めていきました。今後は中学校教員として大学院での学びを実践してくことになりますが、教師として学び続ける姿勢を持ちつつ、常に精進していきます。

ご支援いただいた皆様、この度は本当にありがとうございました。

◆ 高度教職実践専攻　高度教職実践専修　（旭川校）　2年　三田　航希

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただきましたことに心より感謝申し上げます。教職大学院での学びを、このような形で評価していただけたことを光栄に思うと同時に、多くの人に支えられていることを改めて実感しました。

残り短い大学院生活ではありますが、ご支援していただいた皆様への感謝の気持ちを忘れず、今後も自己研鑽に努めるとともに、教員として子供たちに還元できるよう精進致します。

誠にありがとうございました。

◆ 高度教職実践専攻　高度教職実践専修（釧路校）　2年　大越　愛

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。日々の取り組みをこのような形で評価していただけたことを大変嬉しく思っております。

今回授与していただいた奨学金で、研究に関わる書籍の購入や学会の研究会への参加費に充てることができ、自分の研究活動に注力することができました。今後も、ご支援していただきました皆様、教職大学院の先生方、同期の仲間たちがいたからこそここまで学ぶことができたという感謝を忘れず、これからも精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

4 奨学金授与者数（修学支援事業を除く）

（単位：人）

区　分		札幌校 札幌・岩見沢校（大学院生）	旭川校	釧路校	函館校	岩見沢校	計
平成19年度	大学院生	7	5	3	3	—	18
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	13	11	9	9	6	48
平成20年度	大学院生	32	15	13	4	—	64
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	38	21	19	10	6	94
平成21年度	大学院生	42	25	16	5	—	88
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	48	31	22	11	6	118
平成22年度	大学院生	36	16	12	5	—	69
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	19	15	8	3	84
平成23年度	大学院生	36	11	10	3	—	60
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	14	13	6	3	75
平成24年度	大学院生	33	16	8	4	—	61
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	36	19	11	7	3	76
平成25年度	大学院生	20	8	7	2	—	37
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	23	11	10	5	3	52
平成26年度	大学院生	3			2	—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	6	3	3	5	3	20
平成27年度	大学院生	2		4		—	6
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	3	7	3	3	21
平成28年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成29年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成30年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
令和元年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
令和2年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
令和3年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
令和4年度	大学院生	2	3			—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	6	3	3	3	20
令和5年度	大学院生	2	2	1		—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	5	4	3	3	20
計		305	177	142	94	60	778

5 寄附者のご紹介

北海道教育大学基金は、平成18年12月に創設以来、これまで多くの方々にご協力をいただき、学部学生、大学院生への支援をはじめ、寄附講座開催や修学環境整備等への支援を行っております。

ここに、そのご厚志に対し感謝を申し上げますとともに、ご同意をいただいている方々のご芳名とご寄附額をご紹介させていただきます。

■寄附者ご芳名 ※令和5年4月～令和6年3月までにご寄附をいただいた方々を掲載しております。

企業、法人、団体等（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

10万円以上

岩見沢はまなすライオンズクラブ 様	北海道教育大学札幌校物理学教室同窓会（物理会）様
クロスセンシング株式会社 様	北海道教育大学生活協同組合 様
株式会社ZAWA.com 様	北海道教育大学青陵会 様
一般社団法人全国スーパーマーケット協会 様	北海道教育大学函館校尚学会 様
株式会社北海道アルバイト情報社 様	北海道教育大学附属札幌小学校教育後援会 様
北海道教育大学旭川校後援会 様	北海道教育大学附属札幌中学校教育後援会 様
北海道教育大学岩見沢校教職員組合 様	馬淵建設株式会社 様
北海道教育大学鶴陵会 様	株式会社moderate 様
北海道教育大学釧路校後援会 様	有限会社矢田工業 様
北海道教育大学札幌校教育後援会 様	有限会社真総業 様

※五十音順

10万円未満

一般社団法人空知建設業協会 様	株式会社創電 様
岩見沢ガス株式会社 様	空知信用金庫 様
岩見沢建設協会 様	税理士法人TACS 様
岩見沢商工会議所 様	月形町教育委員会 様
ウルフストア 様	株式会社南部電設工業 様
NPO法人ハマナスアート 様	松浦建設株式会社 様
株式会社北海道新聞社みらい教育推進室 様	株式会社向田自動車 様
こくわの里 様	有限会社北光教販 様

※五十音順

企業、法人、団体等（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

ESPRESSO STAND PLATS 様	株式会社北海道教育楽器 様
株式会社もめんどき 様	空知リゾートシティ株式会社 様
株式会社柿本商店 様	味処まごころ 様

※五十音順

個人（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた個人）

10万円以上

植木克美様	梅津和宏様	柿沼博彦様	菊地　圭様	田口　哲様
萩原義昭様	堀田　誠様	三上　修様		※五十音順

10万円未満

東　健治様	庵　健司様	石岡那由他様	石川高史様	板垣壮史様
一條昌子様	稲葉宏彰様	稲見　勉様	梅原　保様	小川邦彦様
門脇正俊様	川合　薫様	菊地志帆様	絹野重治様	蔵本康彦様
栗林千奈美様	香田　茜様	後藤泰宏様	小林臣史様	小林佳之様
齊藤陽一様	酒井秀治様	佐々祐之様	佐々木　新様	佐藤　徹様
佐藤直輝様	佐藤康幸様	志手典之様	島澤正弘様	祐川達也様
鈴木勝斗様	瀬尾悦郎様	千賀　愛様	田端　宏様	玉井康之様
富永　均様	中野　緑様	中路隆広様	中村秀夫様	中山貞子様
仁志紀之様	野田廣志様	野村　卓様	野村秀男様	野村英子様
芳賀　卓様	橋田恭一様	秦　豊治様	樋口英子様	札内征男様
美田正宏様	水戸昭二様	八島勝宏様	安田育人様	横山　悟様
横山円香様				※五十音順

個人（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた個人）

青山眞二様	吾妻祐輔様	石原貴文様	井本剛司様	大西閲美様
岡﨑　泉様	奥村　広様	鎌塚宗一様	栗田俊一様	越川茂樹様
後藤徹也様	桜井美春様	菅沼伸吾様	杉本典充様	鈴木哲平様
髙見太也様	地家俊啓様	鶴見千佳代様	戸坂　隆様	長岡泰司様
中垣隆之様	中島太郎様	中塚英俊様	中村秀子様	谷中博文様
南部正人様	本庄十喜様	二瓶皓太様	野村　公様	早勢裕明様
引地秀美様	樋口壽夫様	二ツ山政治様	堀北昌宏様	八木利夫様
横山　充様				※五十音順

■ 札幌校講義棟リニューアル オープニングセレモニーを挙行しました

令和６年４月２日（火）、札幌校講義棟において、北海道教育大学札幌校講義棟リニューアル オープニングセレモニーを挙行しました。

今回の改修工事は、講義棟改修３期計画の第１期目として令和５年10月から着工し、「30年後の大学教育にも対応できる教室を目指して」を基本コンセプトに、老朽化した講義棟の再生、学修空間の機能改善を目的として実施され、このたび竣工したものです。

セレモニーでは、新装された学生ラウンジの前で、一般社団法人北師同窓会の塚野会長、田口学長、尾関札幌校キャンパス長、学生代表として学生自治会会長の札幌校４年柳沼さんによるテープカットのほか、施設設備の見学会が行われました。

学生からは「開放的な雰囲気になり大変使いやすくなった」「友人同士で話したり休憩できるスペースが増えてよかった」との声が寄せられ、大変好評を得ております。

■ 旭川校の学生が「2023年度旭川ウェルビーイング・コンソーシアム合同成果発表会」で受賞しました

令和６年１月21日（日）、「2023年度旭川ウェルビーイング・コンソーシアム合同成果発表会」が開催され、旭川校の土橋康平講師が指導する運動生理学ゼミナール所属学生４名の発表が【旭川市長賞】を、小谷克彦准教授が指導する体育心理学ゼミナール所属学生1名の発表が【特別賞】を受賞しました。

「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」（以下、AWBC）は、旭川市内の5つの高等教育機関による連携組織で、今回開催された合同成果発表会は、AWBCに加盟している高等教育機関に所属する学生達が、日頃の研究成果や学習成果を発表する場となりました。

【旭川市長賞】を受賞した、運動生理学ゼミナールに所属する芸術・保健体育教育専攻保健体育分野３年の池田さん、木津さん、七宮さん、平井さんの４名は、「冷房施設のない学校を模した暑熱環境下における簡便な冷却法が温熱感覚に及ぼす影響」と題し、公立小学校の普通教室の温度を測定し、暑熱対策として水分補給と併用して手掌・首冷却を行い、熱的快適性と温度感覚に及ぼす影響を検討し、その成果を発表しました。

また、【特別賞】を受賞した、体育心理学ゼミナールに所属する芸術・保健体育教育専攻保健体育分野３年の藤原さんは、「運動会の意義を踏まえた今後の実施への提案」と題して、運動会の意義を見直し、大学生を対象とした実験的な運動会の実施を踏まえ、運動会の今後の在り方についての提案をまとめ、発表しました。

左から土橋康平講師と、【旭川市長賞】を受賞した運動生理学ゼミナール所属の七宮さん、木津さん、平井さん、池田さん

【特別賞】を受賞した体育心理学ゼミナール所属の藤原さん

■ 釧路校とNPO法人東北海道スポーツコミッションが相互協力協定を締結しました

釧路校とNPO法人東北海道スポーツコミッションは令和6年7月22日（月）に相互協力協定を締結しました。

本協定は、地域が抱える様々な課題に対し、教育研究を手掛ける本校とスポーツ・文化振興による地域づくりに取り組む同法人がそれぞれ持つ知識や知見を基に、地域課題の解決に向けた取り組みを行い、教育的な観点からスポーツ・文化活動による地域づくりを目的に地域の更なる発展を目指し、相互に協力するために締結されました。

相互協力協定締結後初めてとなる協議会を、9月4日（水）に釧路校で開催しました。本校からは越川キャンパス長、宮前准教授が、同法人からは中島理事長ら6名が出席し、今後の進め方などを話し合いました。

協議会に出席した越川キャンパス長は「学生にとっては地域とつながる機会でもあり、貴重な経験が積めるのではないか」と今後の活動に期待し、中島理事長は、「体を動かすことばかりではなく、参加することで考える力が身につくといったプログラムを開発していく。大学や学生と一緒に磨き上げていきたい」と意欲を示しました。

握手をする越川キャンパス長（写真左）と中島理事長（写真右）

協議会後の記念撮影の様子

■ あなたが考える「チーム学校」とは？「チーム学校論」でポスターセッション［釧路校］

「そもそもチーム学校のメリットとは何か」「わたしが考えるメリットは・・・」

「チーム学校の一員として、学級担任は何ができるか」「教育実習での経験から・・・」

「連携するために重要なことは何か」「重要なこととして考えられることは・・・」

令和6年7月24日（水）、自作のポスターを介して自由な雰囲気の中、学生同士がディスカッションするポスターセッションを、1講目の「チーム学校論」（専攻科目）の最終回で、学びの集大成として実施しました。

これまで「チーム学校論」では、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの方を講師に招き、特別講義やチーム・ビルディングのグループワーク（コンセンサスゲーム「月面からの脱出」）、特別支援教育における模擬校内委員会のロールプレイなどを通して「チーム学校とは？」を学修してきました。

ポスターセッションでは「あなたが考える『チーム学校』とは？」という問いに対する、それぞれの答えをポスターに表現し、他の学生からの質問にその場で応えるスタイルをとりました。「チーム学校」を単なる知識ではなく、自分事（じぶんごと）として考え、「自分が教師になった時には、まず相手の話を丁寧に聴くことを大切にしたい」など、具体的に意見を述べる姿があちこちで見られました。

ポスターセッションの様子①

ポスターセッションの様子②

■ 函館校でまなびプロジェクト2024を開催しました

令和6年7月27日（土）、函館校において「まなびプロジェクト」を実施しました。

まなびプロジェクトでは、幼児・小学生・特別支援学校のみなさんに1日大学生体験をしてもらうため、「教養科目」と「専門科目」を用意し、受講した子ども達に修了証書をお渡ししました。

「教養科目」では田口学長及び今在副学長のほか、本学の教員による講義が行われ、「専門科目」では、学生サークルや近隣の自治体、企業、岩見沢校などがそれぞれ工夫を凝らした授業を実施しました。

さらに、地元の福祉団体や学校による販売コーナーも設け、どの会場も大変な賑わいを見せていました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、小学生やそのご家族、関係者など約700名の方々にご来場いただきました。

子どもたちは、午前中に「教養科目」を受け、午後は10ある「専門科目」から興味のあるものを自由に選び、大学生体験を楽しんでいました。

参加した小学生からは、「楽しかった。また来たいです」「いろんな学習ができて楽しかった」「体を動かせて良かった」など、たくさんの感想をいただきました。

函館校では、本学の教育マインドを道南地域の子どもたちへ提供するため、今後も地域に密着した活動を続けていきたいと思います。

田口学長による「教養科目」の講義風景

色と音を使って工作体験

■ 函館校で寄附特別講座プレミアムセミナーを開講しました

令和6年6月5日（水）に北海道教育大学函館校創立110周年記念事業として、全国スーパーマーケット・北洋銀行・北海道教育大学の合同主催による「寄附特別講座プレミアムセミナー」を開講しました。

本セミナーでは「ホスピタリティ産業と地域活性化―食の価値の再評価」を全体テーマとし、海産物を中心とした豊かな食資源に恵まれ、洋食文化をいち早く取り入れた函館を舞台に、外食やホテルのホスピタリティ産業による地域活性化の可能性について考えるもので、講師に消費者庁長官の新井ゆたか氏、ロイヤルホールディングス株式会社代表取締役会長の菊地唯夫氏、株式会社ワンダーテーブル代表取締役会長の秋元巳智雄氏、バル・レストラン ラ・コンチャ・イ・バスクのオーナーシェフ深谷宏治氏、株式会社はこだて西部まちづくRe-Design代表取締役の北山拓氏、コーディネーターに亜細亜大学の伊藤匡美教授をお迎えして貴重なお話を伺うことができた他、ご参加いただいた皆様からの質問に答えるパネルディスカッションなど、充実した内容となり、大盛況で幕を閉じることが出来ました。

約240名の方が参加し、大盛況

パネルディスカッションで活発な意見交換

■ 岩見沢校でスタンフォード大学の心理学授業「ハートフルネス」ワークショップを開催しました

令和6年10月25日（金）に、スタンフォード大学のスティーヴン・マーフィ重松教授による心理学授業「ハートフルネス」ワークショップを開催しました。昨年度に引き続き、2回目の開催となります。

本イベントは、北海道大学SIP事業「自分らしく生き、自分の意志で決定できる社会をつくる学びの北海道モデル構築と展開」と、北海道大学COI-NEXT「こころとカラダのライフデザイン共創拠点」による主催イベントで、岩見沢校が共催として開催しました。ワークショップには、芸術・スポーツビジネス専攻の学生15名、教職員8名、他大学（高知大学）・自治体から4名の参加がありました。

スティーヴン・マーフィ重松教授は、「Health and Human Performance（健康と能力開発プログラ

ム）」で、教育イノベーションプログラムを開発されており、マインドフルネスに創造的な表現、変容をもたらす学びを統合させたハートフルネスを導入し、伝統的な智慧とアメリカ最先端科学を取り入れながら、EI（Emotional intelligence：感情的知性）、生きる力や人間力を高める革新的な授業に取り組んでいます。

ワークショップは、ボールを用いたワークで「コミュニケーション」について考えることから始まりました。全体のワークを通して、自分と他者との関係の中で、「自己肯定感を高めること」「なぜ生きるのか」「自分自身や社会の変容」などを考える体験としての「ハートフルネス」とは何かについて理解する講義を受け、ありのままの自分と他者を認め合うことや、マインドフルに生きることの大切さを、いくつかのエクササイズを通して学びました。

参加者からは、「改めてコミュニケーションには何が必要かを考えるきっかけになり、これからも重要なことだと感じました」「自分にとって大切なことはなにか、ということを改めて考える機会になりました」「感謝しようと思っていること、わかっていても普段は感謝の気持ちを大切にしていないと感じ、後悔しないように普段から感謝をしっかりと表そうと思いました」といった感想がありました。

岩見沢校では、SIPとCOI-NEXTの活動として、今後も「ハートフルネス」ワークショップを継続して開催する予定で、大学講義としてのカリキュラム化を目指していきます。

7 お知らせ

■ キャンパス活性化リノベーション事業について

本学では、新時代の幕開けとなった令和元年に、本学が70周年を迎えることを契機に、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設しました。

令和5年度は岩見沢校100周年事業　集まり、つながるCO-RE(コレ)カフェ事業で寄附目標額を達成いたしました。

キャンパス活性化リノベーション事業の詳細は、以下からご覧いただけます。

本学ホームページ　https://www.hokkyodai.ac.jp/intro/effort/renovation.html

岩見沢校100周年事業　集まり、つながるCO-RE(コレ)カフェ事業

つながる喜びを味わう、新たなカフェスペースへ

本事業に対する寄附金
寄附総額　2,300,000円
（寄附目標額225万円/達成率102%）

令和5年度に岩見沢校100周年事業及びキャンパス活性化リノベーション事業として実施した「集まり、つながるCO-RE(コレ)カフェ事業」につきまして、令和6年3月末に改修工事が完了いたしました。

これまで薄暗い印象だったホール部分は、壁や天井の塗り替え、木のトンネルの設置により、明るく温もりを感じる空間に代わりました。また、展示スペースとして活用できるようにピクチャーレールとスポットライトが備え付けられたほか、交流スペースには有志学生が製作した木のベンチやカウンターテーブルが設置され、学生たちの憩いの場となっています。

また、ホールの一画には、飲食店などが臨時出店できるカフェスペースが作られました。令和6年4月12日（金）には、CO-REカフェプレオープンイベントとして、市内飲食店のご協力のもと試験営業を行い、淹れたてのコーヒーと焼き菓子を楽しもうと大勢の学生や教職員が訪れ、賑わいを見せました。

CO-REカフェは今回の改修で完成ではなく、学生や教職員、地域の方々の思いやアイデアにより、これからも変化し続けていく空間です。大学と地域が共に創り、多くの方に愛される場にしていきたいと考えておりますので、今後ともCO-REカフェ事業へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主な事業概要

基金事業は、本学の学生に対する支援並びに大学及び附属学校（園）の教育研究環境の整備・充実等を図ることにより、一層の教育研究活動の推進に資することを目的としています。

また、今年度の税制改正を踏まえ、修学支援事業の対象に障害学生支援を追加して実施することといたしました。

本学基金事業について、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1 表彰事業

北海道教育大学学生表彰規則（平成16年規則第130号）第2条に該当する個人又は団体に対する表彰

2 修学支援事業（税額控除又は所得控除の対象事業）

●経済的理由により修学困難な学生に係る以下の措置への支援

・授業料の減免
・奨学金の給付
・海外留学に係る渡航費用の一部補助
・本学の教育研究に係る業務に従事させたことに対する手当の支給

●障害のある学生等に対して、当該学生等の障害の状態に応じた合理的な配慮を提供する措置への支援（令和7年1月実施予定）

3 修学環境整備事業

教室等の施設・設備の整備及び教育環境の整備

4 附属学校(園)支援事業

附属学校(園)の施設・設備の整備及び活動支援事業

5 その他基金の目的達成に必要な事業

※育英事業（成績が優秀な学生に対する奨学金を給付する事業）については、令和5年度をもって終了となりました。

寄附者様特典

■寄附者のご芳名の掲載について

ご寄附をいただいた方々への感謝の意を込めまして、本学のホームページにご芳名を掲載させていただきます。また、高額のご寄附をいただいた方々につきましては、本学ホームページ上のWeb寄附者銘板にご芳名を刻み、末永く顕彰させていただきます。

※ご芳名の掲載の削除を希望される場合は、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

■贈呈品について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学関連の贈呈品を差し上げております。

コースター

藍染ハンカチ

木皿

石版レプリカ

・コースターについて

北海道教育大学岩見沢校の美術文化専攻でイラストレーションを学んでいる学生がデザインしました。このコースターは、北海道教育大学の様々なことに挑戦する学生達の姿と楽しげなキャンパスライフをイメージして表現しました。

・藍染ハンカチについて

国際交流関係来客時の贈呈品としても用いており既製品ではなく、自然の材料のみ使用した「天然灰汁発酵建て」の藍染ハンカチです。

・木皿について

北海道教育大学岩見沢校の美術文化専攻で木材工芸を学んでいる学生が制作した木の器です。塗装は無害なオイル仕上げにより、木肌の暖かみを直に感じて頂ける木皿です。

・石版レプリカについて

石版レプリカは、北海道教育大学札幌校に展示されている、故・伊藤隆一名誉教授の漆工芸作品を元に制作された作品です。

■定期演奏会等への御招待について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学が実施するイベント（定期演奏会など）にご招待いたします。

■■　クレジットカード決済によるご寄附について　■■

北海道教育大学基金のWebサイトからお申込みいただけます。
詳細はWebサイトをご覧ください。（スマートフォンからのお申込みもできます）

北海道教育大学基金　検索

■■　北教大古本募金について　■■

皆様が読み終えた書籍等を提供いただくと、その買取金額が「北海道教育大学基金」に寄附され、育英事業等に役立てられます。ホームページからのお申し込みに加え、各キャンパスに回収ボックスも設置しております。不要となった書籍、CD、DVDなどのご寄附をお待ちしております。

北教大古本募金　検索

税制上の優遇措置（税額控除制度について）

■対象：修学支援事業（※事業概要14p）

北海道教育大学へのご寄附は、寄附者が個人の場合、「寄附金控除」の対象となり、確定申告を行うことにより税制上の優遇措置を受けることができます。

また、修学支援事業へのご寄附は税額控除の対象となりますので、確定申告の際に、所得控除又は税額控除のいずれかを選択することができます。

（所得金額（年収）－諸控除（扶養控除等））×（税率）5%／10%／20%／23%／33%／40%／45%＝所得税額（寄附金－2,000円）×40%を控除

寄附金のうち、2,000円を超える額の40%が所得税から控除されます。その金額の所得税が還付されます。
※所得税額の２５%が限度です。

《例：年収500万円の寄附者が1万円寄附した場合》
○税額控除の例：税率に関わりなく、8,000円×40%＝3,200円
○所得控除の例：（10,000円－2,000円＝8,000円）×（税率10%（平均的な世帯の諸控除額を想定））＝800円

国立大学協会資料から一部転用

【お問い合わせ先】
北海道教育大学基金事務室
〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号
北海道教育大学総務企画部総務課内
TEL：011-778-0914,0206　FAX：011-778-0631
E-mail：koho@j.hokkyodai.ac.jp
https://www.hokkyodai.ac.jp/intro/fund/

2024.12発行